令和６年度　幼児教育研修（新人）（足立区教育・保育の質ガイドライン）
「保育の基本を深める」（第2回）
日時：令和７年１月３０日（木）１４：００～１６：００
会場：足立区生涯学習センター
講師：日本体育大学　　教授　齊藤　多江子　氏

受講者数 79名

子どもの主体性と子ども理解

〇その子の主体性を理解すること⇒一人ひとりの子どもを理解すること

〇主体性を尊重する⇒
　　子ども理解に基づいた一人ひとりへの援助方法や保育環境を整える

〇主体性を尊重するための方法を考えること⇒個別性への配慮

特に３歳児以上の保育では

「個」の育ち⇔「集団」の育ち

〇一人ひとりの子どもが安定し、園やクラスが居心地のよい場所に
　⇒遊びのなかで友達との様々な関りが生まれる

〇友達と同じ場所で個々に自分のしたいことをして遊ぶ関係から
　⇒友達とのつながりを感じて遊ぶ関係へ
　⇒グループやクラス集団で遊ぶ楽しさを実感できると子ども自身が集団を
　　形成していくように

各自が演習に取り組んだ後に
「話を聞いて、担当しているクラス等において、今、課題だと感じてたことや
気になったこと」についてグループワークをしました。

研修報告書より

研修後、各自が自園に戻って取り組むことを設定し、実践した後に報告書を書きました。

２週間の間で子どもたちが集団遊びを楽しんでいる姿があった。そのため、遊びたいゲームが楽しめるようにした。フラフープを用意して引っ越し鬼ができるようにしたり、どんじゃんけんぽんができるようにタイヤを並べてみたりした。そうしたことで、子どもたちから友達を誘いあって集団遊びを楽しむ姿がみられるようになった。自分たちで準備して始められるようにしたことで、意欲につながり、遊びが発展していったのだと感じた。

公園に行った際にたくさん体を動かしたり、子どもが興味を持っていることを一緒になって楽しんだりしたことで、帰るときに以前に比べ自分で歩いて帰ろうとする姿があった。また、「だめだよ」と否定的な言葉ではなく「やってみる？」と肯定的な言葉で誘うことで、子どもたちが自分からやろうとする姿が見られたので引き続き実践していきたいと思った。

１日の半分を保育園で過ごしている子どももいると学び、少しでも楽しんで過ごせるよう子どもが「やりたい！」と言った遊びや制作を取り入れたり、新しい玩具を出したりして最もふさわしい生活の場になるよう意識した。また、「自分がされて嫌なことは子どもにもしない」と言う言葉を聞き、子どもの立場に立って物事を考えるように意識した。言葉遣いを見直し、自分の行動を見直すいい機会となった。今後も子どもの立場に立って考えることを意識して関わるようにしていく。

環境づくりを行う上で、子どもたちが今、何に興味をもっているのかを振り返り、それに必要な素材を用意した。今までは、子どもが作りたいものに必要な素材が足りなくなってしまうことがあったが、素材を多めに用意したり、セロハンテープをすぐに取り替えられるように事前に補充分を用意したりと、子どものやりたいことが保障できる環境づくりを意識して行なったことで、足りなくなることが少なくなった。

研修を受ける前から子どもたちの姿の変化を感じていた。担当の子どもたちが保育者を求める姿が強くなってきていると感じていた。ディスカッションでは時間がなく話せなかったが、それぞれの成長の中で芽生えた甘えや保護者の転職など生活リズムの変化からの不安、体調面の変化など思いを伝えてくれた時に他の複数の子どもの対応をしていると不満を抱えてしまっているなと感じることがあった。他の職員はその様子を見て、代わりに対応してくれたり、気持ちを落ち着けてくれたりした。その後１対１で関わる時間を作り対応した。他の職員との連携があったからこそ対応ができたと感じた。

子ども理解を深めるためにも他の職員とのコミュニケーションや連携がとても大切だと実感したので、自分もよりより良いクラス運営のために環境を整えていけるようにしていきたい。

子どもが主体性をもって遊べるように環境構成を見直した。今夢中になっている玩具や保育者のねらいに合う玩具を用意して環境を整えた。環境構成を変えると子どもがじっくり遊ぶ場所ができ、より関わりを楽しむ姿が見られた。引き続き、保育の中で学んだことを実践していきたい。